

## ～チームへの依頼事項（スムーズな試合運営のために）～

平成30年3月  
調布市少年野球連盟審判部

### [グラウンド整備]

- 第1試合出場の両チームは、試合開始予定時刻20分前までにグラウンド整備及びライン引きを完了してください。試合が終了したら当該の両チームが、速やかにグラウンドを整備してください。次試合のライン引きについては、次試合出場の両チームが行ってください。なお、ダブルヘッダーの場合は、出場するチームのうち、早く試合の終了したチーム、若しくは試合の無いチームがグラウンドを作成してください。Aクラスの場合は、シートノックがあるので、バッタースボックスとキャッチャースボックスについては、ラインを引かないでください。シートノック終了後、チーム塁審等審判員がバッタースボックスとキャッチャースボックスのラインを引きます。
- トンボをかける際は、ファウルラインに直角にかけると地面が削れてしまうので、ファウルラインに沿って平行にかけてください。
- キャッチャースボックスのラインを引く場合、バッタースボックス内側ラインから起点までの幅は、ホームベースからバッタースボックス内側ラインまでの幅（13センチメートル）と同じ幅で引き、球審の立ち位置まで少し長めに引いてください。（コツとしては、ラインカー右車輪あるいは左車輪をバッタースボックス角に合わせて引くと上記の幅で引けます）

### [指導者の心得]

- 各チームの指導者（監督・コーチ・保護者）は、調布市少年野球連盟ホームページに掲載されている「指導者の手引き」を熟読しておいてください。ここに記載してあるとおり、「フェアプレーの実践」により指導者と選手の望ましい関係を築いていくことが重要です。また、「身体的・精神的暴力」は論外であり、刑法に触れる行為です。さらに、選手の人格や尊厳を否定するような発言は「言葉の暴力」に値します。練習や試合の行われるグラウンドは公的な場所であることから、指導者は常に社会的期待に応えられる振る舞いや服装を心がけてください。

### [選手全般]

- 先攻・後攻を決めるジャンケンの中には、キャプテンは試合球2球を持って集合するようにしてください。
- 試合開始前にベンチ前に整列している両チームの選手全員は、集合がかかったときに打者席の外側に1列に整列する際、帽子をかぶって整列し、球審の合図により全員脱帽して相互に礼を交わしてください。
- 打者用ヘルメット、バットケース等の用具類は、すべてベンチ内に置くようにしてください。その時、ラインから約20センチメートル以上離して並べてください。ラインに沿って並べますと捕手のファウルフライの守備を妨げるおそれがあります。また、次打者でない選手が、バットを持って次打者のそばに待機しないようにしてください（「定められた選手」（ベースコーチ、次打者、ボールボーイ、ピッチング練習時の投手と捕手等）以外は、試合中ベンチを出てはならない）。

- ファウルボールは、ベンチ側で取りに行き、バックネット周辺は、捕手または攻撃側で取りに行ってください。その後、ボールの汚れを落とし速やかに球審に渡すようにしてください。
- ベースコーチは、相手チーム投手の準備投球が始まったら速やかに配置してください。また、相手ベンチ側のコーチスボックスへ行くときは、バックネット裏を通らず、グラウンド内のバックネット前を通過してください。
- 試合終了の挨拶後のバックネット付近での審判員への再度の挨拶は、行わないことにします。

#### [タイムの定義]

- 内野手も捕手同様、投手のもとに行けば、タイム1回となりますので、注意してください。
- 監督が初回マウンドに行き先発投手に指示を与えれば、タイム1回と数えます。ただし、交代したばかりの救援投手にマウンドで指示を与えることは、1回と数えませんが、新しい投手が準備投球を始めた後もそのまま留まっていた場合には1回となります。
- 代打を申し出るときは、必ずタイムを要求してください。また、四球の打者走者が一塁へ着いてから、タイムを要求してください。

#### [打者・走者]

- ネクストバッタースサークル内での素振りは、大変危険なので行わないようにしてください。
- 次打者以外の選手は、バットを持たずベンチ内にいるようにしてください。
- 打者がバッタースボックスに入るときは、球審の後ろを通過して入ってください。
- 1球ごとにバッタースボックスをはずすことのないようにしてください。
- サインはバッタースボックス内で確認してください。その際、監督等サインを出す指導者は、捕手が投手に返球している間、速やかにサインを終了してください。
- 本塁一塁間の後半の走塁の際は、スリーフットレーンの中を走るようにしてください。ファウルラインの内側を走るなどして、打者走者の背中に送球が当たったり、一塁手の守備を妨害すれば、インターフェアでアウトになります。
- 基本的に守備優先なので、打球処理をしている野手を妨害した場合は、走者はインターフェアでアウトとなります。逆に、打球処理とは無関係のボールを持たない野手が走路上にいて、走者を妨害した場合は、オブストラクションを宣告されます。
- バッタースボックス内で打者が打球に触れる自打球となった場合またはバットに当たった打球が再びバットに触れる二度打ちはファウルとなりますが、バッタースボックスを出て、フェアゾーンで触れたらアウトになります。ただし、置いたバットに再びフェアゾーンで打球が触れた場合は、インプレイです。

#### [投 手]

- セットポジションで両手を身体の前に保持したら、必ず静止してください(ボーク)。
- 両手を身体の前で保持する位置は1試合を通じて同じ位置にしてください(注意指導)。
- 投手板をはずすときは、必ず投手板の後方にはずしてください(ボーク)。
- 右投手が投手板に触れて一塁へけん制するときに、軸足をいったん投手板の側方や

前方にはずしてから送球（一挙動と見なされない）をしないようにしてください（ボーク）。

- 投手が1度自由な足を止めてから打者への投球、塁へのけん制球を送球した場合は、ボーク（走者がいない場合は、注意指導）となります。
- どの塁においても定位置の野手に、けん制球を送球した場合は、遅延行為とみなされ、ボークとなります。
- 二塁に走者がいるとき、ずっと二塁に顔を向けて、そのまま打者へ投球すると打者が準備できていない場合があり大変危険であるため、一度打者を見てから、投球してください（ボーク）。
- 三塁に走者がいるとき、投手板に触れて三塁へ偽投（右投手左投手ともに）すれば、ボークとなります。一塁・三塁で右投手が一度三塁へ偽投してから振り向きざま一塁へけん制する行為は禁止となります。したがって、投手板に触れての偽投が許されるのは、二塁のみです。
- 投手が自らボール交換を要求する場合は、インプレイ中、ボールデッド中に関わらず、必ず球審の許可を求めてください。インプレイ中のときは、球審がタイムをかけてから、ボールを交換します。仮に球審の許可を求めず、インプレイ中に投手がボールをベンチに投げ返してしまった場合、ボールデッドとなり走者がいるときは、2個の安全進塁権（テイク・ツー）が与えられます。
- 投手用のグラブは、全体が1色（白色、灰色以外）のものを使用してください。
- 健康維持を考慮し、投手は1日7イニングス（Cクラスは1日5イニングス）までの投球制限が適用となります。3分の1回未満の場合であっても1イニング投球したものと数えます。なお、特別延長戦の場合は、直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができます。また、特別延長戦で投手を交代する場合は、その試合で1度も投げていない選手に限りです。
- 「投手の投球当時」の解釈は、「投手が打者に対する投球動作を開始したとき」です。したがって、投手がセットポジションのとき、一塁走者が盗塁し、投手が特にけん制など何の動作も行わず、二塁に走者が到達した後、投手が投球動作に入り、打者に投球し、ファウルボールを打った場合、走者は二塁が占有塁となるため、二塁にとどまります。なお、「投手が投球動作を開始したとき」とは、投手が投球すべくボールを保持した腕を振り上げたときです。

#### [捕 手]

- Aクラスの捕手は、危険防止のためファウルカップを着用してください。調布連盟主催の試合では、試合前に審判部からのチェックは行いません。チームの責任において徹底をお願いします。（上部大会は確認あり）
- 攻守交代時の捕手の準備は速やかにしてください。捕手の準備中は、代わりの選手がフル装備で、すぐにベンチを出るようにしてください。代わりの選手がいない場合は、三塁手が行ってください（ヘルメットとマスクを着用）。この際、正規の捕手の準備は、ベンチ前にて速やかに行ってください。
- 捕手が投手に返球するとき、あるいは自分の位置へ戻るときに、ホームベースを踏まないようにしてください。
- ハーフスイングをリクエストするときは、打者を指差し、「振った」あるいは「スイング」と声を出して球審に要請してください。
- 捕手が投球を捕球するとき、ミットを本塁ベース上に出さないようにしてください。

出した時点で打撃妨害となります。

- 投球を受けた捕手が、「ボール」を「ストライク」に見せようとする意図で、キャッチャーミットを動かす行為は禁止です。
- 本塁でのタッグプレイの際に、捕手が送球を待つときボールを持たない状態で、明らかに本塁上に立ち、走者の走路をふさぐことがないようにしてください。野球のルールに「ブロック」という用語はありません。逆に捕手が明らかにボールを保持しているときは、走者が落球を誘おうとして、意図的に捕手に体当たりや乱暴に接触することは禁止します。他の野手も同様です。

#### [野 手]

- ラウンドアッププレイなどで、走者が3フィート以上走路から離れた場合でも、野手が腕を伸ばしてタッグ行為を行っていないとラインアウトにはなりません。
- ボールを持たない野手は、ベースについていないようにしてください。走者が走りにくくなれば、接触しなくともオブストラクションとなります。
- タッグアップやベースの空過、リタッチの有無などでアピールをする場合は、当該審判員に、必ず声で「三塁走者の離塁が早かったです」などと伝えてください。
- 野手（特に三塁手）が明らかなファウルボールを捕球した場合は、速やかに投手に返球してください。（ベンチから一塁等への練習のための送球を命じない）。
- イニング間の野手の練習時、球審の「ワン・モア・ピッチ」のコールがあれば、速やかにボールをベンチに戻してください。

#### [審判員]

- チーム塁審4名は、チームのユニフォーム（チーム統一のTシャツ、グラウンドコートも可）着用で、インジケーターと刷毛を持って、試合開始予定時刻の15分前に集合してください。そのとき、塁審配置と時計記録係の役割分担を決めます。試合前には必ずミーティングを行い、試合終了後は、審判技術向上のため、反省会を実施します。なお、携帯電話・腕時計など試合に不必要なものは、絶対に持ち込まないでください。
- 審判員への給水は、通常偶数回終了後（2回，4回，6回）にお願いします。ただし、夏場の試合は毎回お願いします。その際、一塁塁審は、一塁側ベンチに向かい、二塁塁審，三塁塁審は、三塁側ベンチに向かい給水を受けます。給水係のマネージャーは、危険なのでグラウンド内に入らないでください。球審については、選手交代の通告等試合運営があるため、一塁側ベンチのマネージャーから直接グラウンド内で給水をお願いします。また、試合終了の挨拶後、バックネット裏付近での給水は、勝利チーム側からお願いします。
- 公式試合において、雨天や上部大会参加等のため、試合日程が変更され、土曜日に試合が組まれた場合の審判については、当該対戦チームからチーム塁審を出し、原則として球審も、当該チーム所属の審判部員が務めることとします。
- トーナメント戦での準決勝の塁審と時計記録係は、準々決勝で敗退したチームから出してください。

#### [応 援・見 学]

- 応援や見学する場合は、外野側ラインをはみださないよう所定の位置で、行ってください。特に小さいお子さんから目を離さないでください。多摩川グラウンドでは、

ビデオ撮影や写真撮影、選手への声掛けなどをバックネット裏付近で行うことは、禁止事項となっています。また、試合の無い監督・コーチ・選手が、バックネット裏付近で見学することも禁止となっています。

[大会期間中の練習試合]

- 調布市少年野球連盟主管の公式試合大会期間中において、多摩川グラウンドを使用する場合は、公式試合（開会式及び閉会式を含む）がA、B、C、D、E面の5面のうち1面でも行われている際には、その公式試合が終了するまで練習試合の相手チームが、グラウンド内に入りキャッチボールなどの練習をすることはできませんので、練習試合を企画する際には、十分注意してください。